

令和2年度第2回尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会 議事概要

- 1 日時 令和3年1月29日(金) 午後2時から午後2時50分まで
- 2 場所 愛知県一宮保健所 4階 大会議室
- 3 出席者 別添出席者名簿のとおり
- 4 傍聴人 4人
- 5 議題 具体的対応方針(役割)の決定について【公立・公的医療機関分】
地域で不足している外来医療機能に関する検討(初期救急医療、在宅医療、
学校医、産業医等の公衆衛生に係る医療)について【愛知県外来医療計画に
関する部分】
非稼働病棟を有する医療機関の状況について
非稼働病棟を有する医療機関への対応について
公的医療機関等2025プランに準じた事業計画について

6 会議の内容

(1) 開会(一宮保健所次長)

令和2年度第2回尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会を開催します。

(2) 委員長の選出について

開催要領第3の第4項の規程によりまして、互選で、委員長は一宮市医師会の櫻井様
にお願いする。

(3) 委員の出欠席について

構成委員数は16名で、出席委員数は16名、欠席委員はなしで、委員の過半数が出
席しています。

(4) 会議の公開・非公開について

当委員会は、開催要領第6第1項によりまして、全て公開で行います。

(5) 議事

ア 具体的対応方針(役割)の決定について【公立・公的医療機関分】「資料1」

(説明者：一宮保健所 伊藤課長補佐)

- ・公立・公的医療機関のプランにつきまして、尾張西部医療圏の状況をまとめたもの
となります。
- ・県庁より国に報告する必要があるため、年に一度、協議しています。
- ・昨年度分から厚生連稲沢厚生病院の病床数が変更となっています。

イ 地域で不足している外来医療機能に関する検討（初期救急医療、在宅医療、学校医、産業医等の公衆衛生に係る医療）について【愛知県外来医療計画に関する部分】「資料 2、参考資料 1」

（説明者：一宮保健所 伊藤課長補佐）

- ・令和 2 年 3 月に公示しました愛知県外来医療計画におきまして、各構想地域の地域医療構想委員会で外来医療機関間での機能分担の方針等について協議を行うこととしています。
- ・外来医療機能の現状につきまして、初期救急医療、在宅医療、公衆衛生医療の分野ごとに現状のデータを載せています。
- ・事務局といたしましては、地域の外来医療機能の現状につきまして、初期救急医療は 1 施設当たりの時間外外来の対応件数が、全国平均それから愛知県平均を上回っており、今後とも必要に応じて状況を注視していく医療機能と位置付けます。在宅医療は 1 施設当たりの算定回数が、一宮市におきましては、往診と訪問診療で全国平均を上回っており、在宅看取りは、全国平均を上回っています。愛知県平均では往診のみが上回っており、訪問診療及び在宅看取りにおいては下回っています。稲沢市におきましては、往診、訪問診療、在宅看取りの全てにおいて、全国平均、愛知県平均を下回っている状況です。今後は高齢化の進展も見込まれることからこちらに関しましても注視していく医療機能と位置付けます。公衆衛生医療は、診療科や市によって差があるものの地域において、特段の問題は起きていないため、医療機能が低下しないよう見守っていく現状維持の医療機能と位置付けます。

ウ 非稼働病棟を有する医療機関の状況について「資料 3、参考資料 2」

（説明者：一宮保健所 伊藤課長補佐）

- ・資料 3 の診療所で動きがあったところは、医療法人後藤マタニティクリニックと森整形外科です。
- ・医療法人後藤マタニティクリニックでは、令和 2 年 6 月 24 日から入院医療を再開しています。なお、令和 3 年 1 月 1 日付けで診療科名の変更、開設者氏名の変更、管理者の変更手続きが実施され、医療機関名をメイプルベルクリニックに変更しています。
- ・森整形外科では、令和 3 年 1 月 11 日から病床数 11 床を 0 床に変更し、無床診療所となっています。

エ 質疑

（社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員）

- ・メイプルベルクリニックは、開設者が変わったのですか。

（一宮市医師会長 櫻井義也委員「委員長」）

- ・開設者の医療法人理事長はそのままです。
- ・管理者は一宮市医師会に新規入会される千秋先生が管理者になりました。

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・開設者はこれまでと同じ後藤先生が開設しているわけですね。

(一宮市医師会長 櫻井義也委員「委員長」)

- ・はい。

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・分かりました。

(一宮市医師会長 櫻井義也委員「委員長」)

- ・メイプルベルクリニックですが、稲沢市内で開設しているセブンベルクリニックとは独立し、協力医療機関ということですが、御質問、御意見等ございませんでしょうか。

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・特にはないです。

オ 非稼働病棟を有する医療機関への対応について「資料 4、参考資料 2」

(説明者：総合大雄会病院・社会医療法人大雄会 井尾公治経営企画部長)

- ・総合大雄会病院の非稼働病棟 8 床の計画について説明します。
- ・令和元年 7 月に提出しました総合大雄会病院公的医療機関等 2025 プランを抜粋していますが、2020 年度までに、大雄会第一病院から泌尿器科、形成外科、血管外科を総合大雄会病院に移設して、現在、総合大雄会病院にありますリハビリテーション科を大雄会第一病院に移設し、総合大雄会病院の休床 8 床を急性期病棟として稼働する計画でした。
- ・2018 年 1 月に大雄会第一病院の産婦人科を総合大雄会病院の北館に移設して、49 床の増床でオープンしました。
- ・透析治療を担う複数名の腎臓内科医師の採用を行う計画でしたが、上手く進まず、当初計画が遅れています。
- ・令和 2 年に入ってから新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響が大変大きく、収支計画を見直さざるを得なくなりました。
- ・診療科の移転と休床中の 8 床稼働は、2～3 年後になると考えています。
- ・詳細な日程は未定であります。実行するべき取り組み内容は、総合大雄会病院公的医療機関等 2025 プランのとおりです。

カ 質疑

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・休床中の 8 床ですが、将来的に高度急性期にすることということなのですか。

(総合大雄会病院・社会医療法人大雄会 井尾公治経営企画部長)

- ・高度急性期ではなくて、急性期の中の一つに組み込んでいくことを考えています。

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・分かりました。

キ 非稼働病棟を有する医療機関への対応について「資料 5、参考資料 2」

(説明者：稲沢市民病院長 加藤健司委員)

- ・これまでの経緯と休棟の現状ですが、計画段階で新築時は 8 病棟の予定でしたが、平成 26 年 11 月に開院しました時は、2 病棟の休棟で開院しています。
- ・平成 28 年 4 月に地域包括ケア病棟 1 棟を開院しまして、休棟の病棟は 1 棟となりました。
- ・HCU 病棟につきましては、計画時に 1 棟となっておりますが、急性期としてずっと稼働してまして、平成 30 年 12 月に施設基準を取得して、HCU として稼働を開始しています。
- ・令和元年 10 月からは 1 病棟を臨時的に休棟しています。
- ・令和 2 年 2 月から稲沢市内の在宅医療に貢献するために、訪問看護ステーションを設立しています。
- ・令和 2 年 3 月以降に新型コロナの感染拡大に伴いまして、4 階南病棟を感染病棟として使っています。
- ・令和 2 年 12 月からですが、5 階北病棟を今臨時的に休床している状況です。
- ・現在は、新型コロナのために、5 階北病棟を含め、3 病棟が休棟している状況です。
- ・5 階北病棟の休棟で、一時的に地域包括ケア病棟を増床しています。
- ・HCU 病棟も増床している状況です。
- ・非稼働病棟に対する考え方ですが、現在 3 病棟を休棟していますが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた時点で、臨時的に休棟している 5 階北病棟を急性期病棟として稼働させる予定です。
- ・一時的に休棟している 3 階北病棟に関しては、今後増加する高齢者の外傷に対応するため、高齢者外傷センターを設立する準備をしています。
- ・開院以来休床中の 4 階北病棟につきましては、平成 29 年度に作成した新改革プランで稼働に向けた課題を示し、機能に関しては、圏域全体の中で、当院の担う役割を見極めていきます。
- ・行政当局と検討しながらですが、地域医療構想の議論の中で、今後、当医療圏に特定の回復機能病床の不足が明らかになった場合には、回復期機能で稼働していきたいところに変更はありません。

ク 質疑

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・高齢者外傷センターというのは、どのような疾患で、どのようなイメージなのかをお尋ねします。

(稲沢市民病院長 加藤健司委員)

- ・高齢者が増えるので、特に大腿骨頸部骨折、あるいは脊髄圧迫骨折のような疾患がかなり増加している現状です。
- ・主に整形と脳外科、慢性硬膜下血腫のような疾患が対象になる。

- ・整形・脳外領域の高齢者外傷の疾患に対して、重点的に対応する予定です。

ケ 非稼働病棟を有する医療機関への対応について「資料 6、参考資料 3」

(説明者：一宮保健所 伊藤課長補佐)

- ・非稼働病棟を有する医療機関の状況ですが、過去 1 年間で 1 度も入院患者を収容しなかった病床のみで構成される非稼働病棟を有する医療機関につきましては、病院 3 施設、有床診療所 7 施設の計 10 施設となります。
- ・非稼働病棟の現状ですが、例年は県庁におきまして、県独自の調査を実施して把握しているところですが、今年度につきましては、県といたしまして新型コロナウイルス感染症に対する課題対応を優先していたことから、病院への調査を実施して、有床診療所の調査は実施しませんでした。
- ・有床診療所は、昨年度の病床機能報告結果からの把握となっています。
- ・今後の予定は、非稼働病棟をいかに稼働病棟として機能させるかという視点を第一に、総合大雄会病院及び稲沢市民病院の 1 年後の状況確認・点検ために、継続して協議を行う対象医療機関とさせていただきます。
- ・厚生連稲沢厚生病院は、昨年 9 月 9 日に開催しました前回の本委員会におきまして、公的医療機関等 2025 プランの変更を協議し、今年度内に 1 病棟 50 床を廃止して、返還する内容に合意が得られているため、適切な時期に本委員会に報告します。
- ・有床診療所は、7 施設の内、2 施設が調査等以降に非稼働の状態が解消していますので、残りの 5 施設について、引き続き状況を注視し、状況の変化が確認された場合には、本委員会に報告します。

コ 質疑

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・有床診療所の急性期・亜急性期は、2025 年までにどのように決めていくのですか。
- ・平均在院日数で切るとか、具体的にどうしているかを考えていますか。
- ・急性期病棟、亜急性期病棟、慢性期病棟を国はどのような指標で、今後、取り組んでいくのか、分かっている範囲で回答をお願いします。

(医療計画課 渡邊主任)

- ・病床機能報告の 4 機能を定量的な基準で、どう判断していくのかの部分だと思えますが、現在のところ国から、亜急性期病棟や慢性期病棟に関して、在院日数や手術の件数等の定量的な基準で切っていく考えは示されておりません。

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・分かりました。

サ 公的医療機関等 2025 プランに準じた事業計画について「資料 7、参考資料 4」

(説明者：一宮保健所 伊藤課長補佐)

- ・役割や機能を大きく変更し、事業計画の作成が必要となる医療機関を把握しているところですが、今年度は有床診療所の県独自調査が実施されなかったため、事業計画

策定医療機関として協議が継続していた医療機関の状況把握に努めました。

- ・医療法人恵仁会一宮整形外科ですが、昨年度の調査におきましては、急性期で非稼働となっている19床につきまして、機能変更はしない再開予定でしたが、昨年11月に提出されました変更許可申請におきましては、現診療所の隣接地に新棟を建築し、外来及び入院機能を移転させる計画で、現状の19床の内、3床を移転させることとなっています。現在使用している診療所建物におきましては、解体する予定と伺っておりまして、残る16床の返還が確定した際には、公的医療機関等2025プランに準じた事業計画を協議していきたいと考えています。

- ・メイプルベルククリニック、旧名称は医療法人後藤マタニティクリニックですが、昨年度の協議対象とした時点では、休棟の15床を急性期の15床にすることとなっていました。今年度の状況は、入院医療再開に向けた診療所全体の間取りの変更及び診療科名の変更があり、6月から入院医療を再開しています。令和3年1月には、医療法人の定款の変更、診療所開設者氏名の変更、診療所名称の変更、診療所管理者の変更届が提出されています。こちらにつきましても診療所の入院機能の改修が一段落した際に、公的医療機関等2025プランに準じた事業計画を協議していきたいと考えています。

- ・両医療機関につきましては、来年度の本委員会において事業計画を提示していただき協議を行っていきたいと考えています。

シ 次年度以降の尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会の体制の考え方について 「資料8」

(説明者：一宮保健所 伊藤課長補佐)

- ・令和3年4月から一宮市が中核市に移行することに伴いまして、県一宮保健所は廃止して、一宮市内の区域につきましては、一宮市が新たに設置する保健所が管轄することになります。

- ・来年度以降の本委員会の体制の考え方を説明します。

- ・事務局は、基幹となります保健所は県清須保健所になります。所管の保健所は一宮市保健所になります。

- ・構成員は、基本的に今年度から変更はありません。

- ・委員会の会場ですが、区域内において、会場の面積や委員が集まりやすいことを考慮して決めてまいりたいと考えていますが、基本的には、引き続きこの会場で実施していきたいと考えています。

- ・事務局の連絡先は、資料8でお示ししているとおりです。

ス その他

(説明者：一宮保健所 伊藤課長補佐)

- ・一宮西病院における新型コロナウイルス感染症患者受け入れのための特例の病床整備について、昨年11月30日に開設許可事項一部変更を許可しまして、使用前の検査を行い、昨年12月17日に病院施設使用の許可をしました。

- ・昨年12月21日から稼働していると伺っています。

セ 意見

(社会医療法人杏嶺会理事長 上林弘和委員)

- ・ここ最近は、尾張西部地区の発生者が少なくなって、今は愛知県からの依頼を受けて、愛知県東部の三河方面からの患者様を受け入れ始めました。
- ・この辺りの患者様は10人ぐらいで、いまいせ心療センターの患者様と合わせて、15人ぐらいになっています。

(一宮市医師会長 櫻井義也委員「委員長」)

- ・ありがとうございました。大変心強いと思います。

(6) 閉会 (一宮保健所次長)

令和2年度第2回尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会は、これもちまして、閉会といたします。